

一粒耕心

より良い農業経営を目指し アスパラガス栽培に励む若き部会長

地域農業振興に尽力

能代市河戸川でアスパラガス栽培に精を出すのが大塚剛志さんです。大塚さんは就農して18年目を迎え、アスパラガスのほか、水稲

や大豆の複合経営を家族で営み、年間を通じた栽培を行っています。また、J Aの生産部会の中で最も若い部会長として、管内全体のアスパラガスの品質・収量向上にも尽力しています。



能代市河戸川
大塚 剛志さん

白神アスパラガスは、促成栽培と露地栽培の2種類の 방법으로栽培されています。現在出荷されている促成物は12月〜3月が出荷のピークで、『寒暖の差が大きい』という当J A管内の気候を最大限に活用することで、穂先のびっしりと締まった、とても甘みのあるアスパラガスが出来る上がります。部会員は株品評会や目揃会などを開き、栽培技術の更なる向上を図り、良質なアスパラガスの生産に励んでいます。

栽培へのこだわり

大塚さんの圃場では、1〜2年で定期的な作物の回転を行っています。こうすることで、連作障害を防ぐとともに、圃場の回転によって作物同士の生育に好影響が生まれています。「圃場には堆肥や肥料を約3t施用して豊かな土作りを行い、株の養成に努めています。そしてハウスに移したあと、温度・湿度管理の徹底は怠りません。また、以前はクリスマス前が一番の需要期であったアスパラガスですが、現在は年明けまで単価が高いが続いています。そのため、市場の単価を注視しながら栽培・出荷を計画的に行っています」と大塚さんは話します。

今後に向けて

「いかにして収量を増やすのが課題」と大塚さん。今後につい

経営規模	
アスパラガス	90 a
水稲	4・0 ha
大豆	33・0 ha



↑ 収穫作業を行う大塚さん

て何うと「土壌改良について学び、さらにより良い土作りに取り組むほか、株が大きいほど良質なアスパラガスが収穫できることから、5月下旬に行っている定植を5月上旬にする早植えにも挑戦してみたい」と話してくれました。

また、部会長として「部会員が減少しているが、技術向上、収量増を目指し、これからの担い手にアスパラガス生産の魅力を伝えていきたい」と力強く話してくれました。